

中学校国語 A (主として「知識」に関する問題)

平成26年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。漢字、故事成語、言葉の意味や使い方、話し合い活動の仕方、文章の読み取り、書写などが出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.4%上回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語A	80.8	79.2	79.4	+1.4

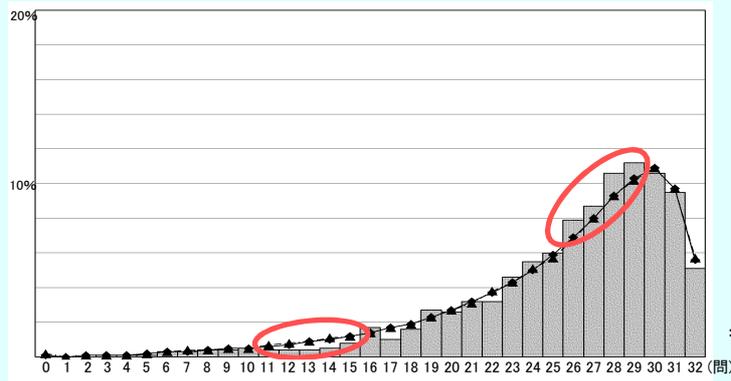
誤答の
様子は…



分布の様子は…

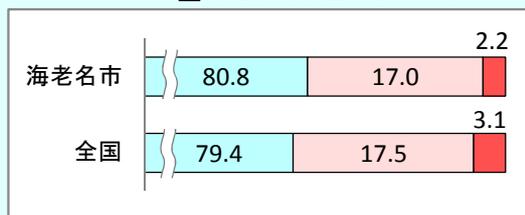
《正答数による分布》

■ 海老名市 -▲- 神奈川県 ◆ 全国



《誤答の内訳(%)》

■ 正答 □ 誤答(書いたが誤答だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は2.2%でした。

全国と比較すると
正答数が26~29問の生徒が多く
11~15問の生徒が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~16問)の生徒の割合は6.0%でした。(全国は8.2%)

* 正答率80%以上(26~32問)の生徒の割合は63.5%でした。(全国は61.8%)

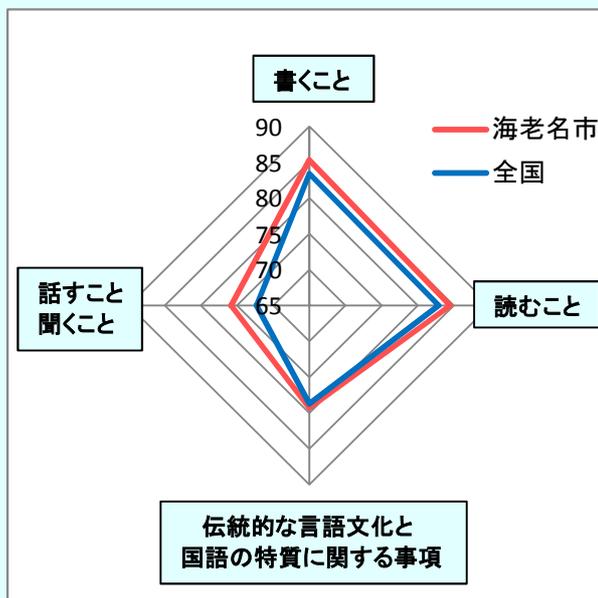
領域別の正答率

全領域において全国と比較して
やや上回っています

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	75.8	72.3	+3.5
書くこと	85.3	83.4	+1.9
読むこと	84.5	82.9	+1.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.3	78.7	+0.6

* 「話すこと・聞くこと」については、3.5%上回っていました。

* 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、ほとんど差がありませんでした。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った項目	全国を下回った項目
<ul style="list-style-type: none">○ 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する。(＋4.7)○ 話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす。(＋4.6)○ 文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する。(＋3.7)	<ul style="list-style-type: none">○ 漢字を書く。(半径) (－4.5)○ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。(－1.5)○ 集めた材料を分類するなどして整理する。(－1.4)

国語Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

文脈にあわせて漢字を正しく書く設問

○ 次の文中の _____ 部のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

- | | | |
|---------------------------------------|----|----|
| 1 地域の人を <u>ショウタイ</u> する。 (全国との比較＋2.0) | 正答 | 招待 |
| 2 円の <u>ハンケイ</u> を求める。 (全国との比較－4.5) | 正答 | 半径 |
| 3 計画を行動に <u>ウツ</u> す。 (全国との比較－1.0) | 正答 | 移 |

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む設問

- ねずみの、おすめをまうけて、
_____ 線部「まうけて」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。 正答 もうけて

☆国語Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が26～29問の生徒が多く、11～15問の生徒が少ないことが、平均正答率が高いことにつながっている。
- ◆ ほとんどの設問において無解答率が全国と比べて低いことから、設問に粘り強く取り組む姿勢が見られる。
- ◆ 漢字や歴史的仮名遣いの習得に課題があり、学習した言語の定着を図る指導が必要である。

指導の改善にむけて

◆ 「漢字を確実に習得する」ために

- 日常的に、習得した漢字を文章の中で適切に使うように指導する。
- 読書活動を充実させるとともに、優れた文章などを書き写す活動などを取り入れ、指導する。

◆ 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」ために

- 歴史的仮名遣いで書かれた文章を音読したり、書き写したりする活動を取り入れ、指導する。